



能代東中学校
教諭
石川 雅道

これが私の 指導法

～知的財産の継承～

能代山本の社会科には、地域素材を教材化して、児童生徒に地域の一人員としての自覚を高めることを意図した授業研究を行っています。私自身も、

今年度は檜山出身の偉人・渡部斧松が開いた渡部村の「村法」を社会科の資料として教材化しました。五月に二年生の宿泊体験学習で男鹿市を訪問し、斧松が作った村法が刻まれている石碑を見学したことがきっかけです。ガイドをしてくださった方に協力していただき、その内容が分かる資料を入手することができました。授業では、江戸幕府が示した「百姓の生活心得」と比較し、共通点や特徴的な内容を読み取り、村法の特色を考える活動をしました。生徒

は体験によって関心が高まっていたこともあり、斧松が人々に尊敬される理由について意欲的に考えることができました。身近な地域で起こった出来事や地域が生んだ偉人の業績にふれることは、社会的事象に対する関心を高め、郷土への愛着を深めるためにも有効なことだと実感しています。毎日の授業では、疑問があったら気軽に質問できる環境づくりを心がけています。その結果、本校では学年が上がるにつれて授業中に質問する生徒が多くなっています。

二ツ井中学校

教頭 佐藤 達治

『地域に根ざした 起業体験推進』

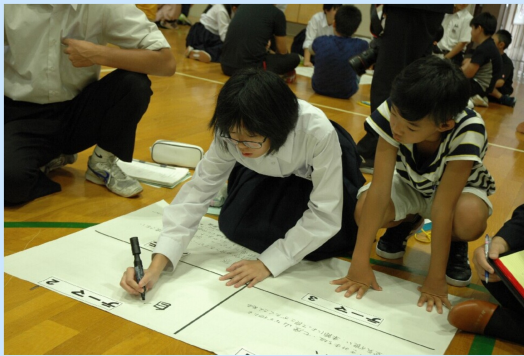
今年度本校では、二ツ井小学校とともに、「小・中学校等における起業体験推進事業」の指定を文部科学省から受けた。小学校一校中学校一校という地域のスケールメリットを生かし、「夢に向かって行動する子ども」自立して生きる力の育成」というキャリア教育の目標を立てた。目指す児童生徒像は①ふるさと二ツ井を愛し、貢献しようとする児童生徒。②地域との連携を深め、地域の問題を解決できるような新しい価値を創



造しようとする児童生徒。の二点とした。

さてこの方針のもと、九月八日に「二ツ井中学校区ふるさと・キャリア教育シンポジウム」を開催した。これは地域の素材（自然、人、特産物）に付加価値をつけて提供する方法を探るための企画であった。はじめに「おむすび権兵衛」という二ツ井町産のお米を使っておむすびチェーンを展開している岩井健次様から講演していただいた。その後、小・中二十の縦割り班で、「二ツ井は宝の街」というテーマで地域の方も交えて意見を出し合った。二ツ井の宝をより輝かせるために自分たちができることについて、地域の人々と一緒に考えた。地域の素材を生かした商品の企画や、新しいサービスの提供といった案が出た。今後この会を継続し、小学生から中学生までの連携したキャリア教育を進めていきたい。

また、二年生は来年度修学旅行で「おむすび権兵衛」の協力を得て、自分たちが企画したおにぎりの販売を計画している。そのために、効果的な販売促進の方法などについて学習し、おにぎりのキャラクターコピーなども考える予定である。



す。課題を追究する中で生徒が感じた疑問を大切に、生徒の目線で社会的事象を見つめさせることで、課題はより一層生徒にとって身近なものになっていきます。今後も、「それはつまり、どういうことなのか」「なぜそのように変化したのか」など、学習したことを問い直すことを大切にしながら、生徒が自分の成長を実感できる授業づくりを目指していきたいと考えています。



編集後記

第14回能代っ子中学生ふりさと会議。先月、市内全中学校2年生が文化会館大ホールに集まり、初の議会形式で行われ、初めは生徒からの質問や提言。会場の生徒からの意見や市長からの答弁。そして再質問等。能代の未来を考えた行動しようとする生徒の気概を感じました。各校で指導に当たられた先生方、本当にありがとうございました。(M)